

探 究

探究 Co 便り 文：伊藤

令和6年11月5日(火)

NO.8

「教師の悩み」



先日、坂本先生と一緒に「開智探究の日」の指導案を検討し、坂本先生の「教師の悩み」をお聞きしました。坂本先生は「悩みって言われてもよくわからないんですよ」と、正直な前置きの後次のようにお話されていました。「接客の経験のない子どもたちの中から、改善点が生れてくるのか。事前に接客の『正解』を指導していないことはよかったのだろうか？」先生方はこの悩みについてどう思いますか？きっと様々なお考えがあるのだと思いますが、いずれの考えにもその先生ならではの授業観が現れてくるような気がします。しかもこの「悩み」は一度分かって終わりというものではなく、教員である以上何度も考え直さないといけない授業の本質に迫る「悩み」である気がしました。

ところで、(探究で有名な)藤原さとさんは、「深い学びが実現しない単なる活動と「探究」の違いは、「モヤモヤと言語化できない不安に取り巻かれた『不確定な状況(子供が、本気で悩み試行錯誤している状況)』があるか否かであり、「活動の基本的意図は、楽しませることでもなければ、できるだけ苦痛を与えずに知識を伝達することでもない」と言っています。(『協働する探究のデザイン』)少し視点を変えて、授業をつくることそのものが私たち教師の「探究」であると考えれば、「教師の悩み」に向き合うか目を背けるかによって探究の質・授業の深みが全く変わるということになります。今年の私自身のことを言えば、苗を枯らしてしまったことや、やっと収穫にこぎつけた藍の葉にカビを生やしてしまったこと、その他恥ずかしいぐらい「悩み」の連続でした。その度に冷や汗を流し、何とか活動を継続してきましたが、自分の見通しの悪さがいまい加減嫌になっています。支離滅裂ですが「悩み」なんてない方がいいとつくづく思いました。つ



【写真】枯れた後、植え変えた苗に一人水をあげる MH 君

いいには子供にまで「申し訳ない」と詫げる情けない有様でしたが、その時「先生のせいじゃないよ。開智タイムの時間は先生も生徒になればいいじゃん」と、子どもに言われた言葉がなぜかに残っています。

明日の「開智探究の日」も、見せるための授業ではなく、偽りのない日々の断章として先生方が悩み挑戦しているありのままの姿を見ていただくとともに授業を公開する意味があるのではないのでしょうか。授業後悔ですから(笑)